



宇宙戦略基金

宇宙戦略基金事業 領域別説明会

2025（令和7）年4月23日

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

宇宙戦略基金事業部

- 本説明会は、3月26日に公表された宇宙戦略基金事業（第二期）について、基本方針・実施方針に関する**質疑応答を目的とした説明会**となります。
- **基本方針・実施方針の詳細は政府HP及びYouTube動画をご確認ください。**

■ 内閣府HP



■ YouTube（宇宙戦略基金事業（第二期）説明会）



- 第二期に関する事務手続きや経費計上のルールは鋭意準備を進めています。本件に関するご質問は、公募開始までお待ちくださいますようお願いいたします。
第一期における事務手続きや経費計上のルールは、宇宙戦略基金ウェブサイトをご確認ください。



第二期の進捗状況（全体プロセス）

- 3月26日に公表された基本方針・実施方針を受け、**公募発出に向けた準備中**です。
- 宇宙戦略基金ウェブサイトにおいて順次、公募予告及び公募を開始していきます。
- **公募に関する最新情報は、宇宙戦略基金ウェブサイト、JAXA BIZ メルマガ、JAXA BIZ Xにて発信します。**

第二期プロセス



（参考）第一期プロセス



政府による実施方針の策定（令和7年3月26日）を受けて、今後、各技術開発テーマ（全24テーマ）について、順次公募を行っていきますが、数多くの方々に優れた提案をご検討いただきたく、その予見可能性を高める観点から、予め、全ての技術開発テーマについて公募開始時期の目安を示します。

（公募開始時期の現時点での目安であり、準備状況等によって変更する可能性がありますこと、ご了承ください。）

○5月前半を目途（令和7年3月27日に公募予告済み）

- 【経】高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発
- 【総】衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフィジビリティスタディ
- 【文】月面インフラ構築に資する要素技術

○6月中旬

- 【経】高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新
- 【文】地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術
- 【文】高頻度物資回収システム技術

○6月下旬

- 【総】衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた開発・実証
- 【文】空間自在利用の実現に向けた技術
- 【文】船外利用効率化技術

○7月中旬

- 【総】国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証
- 【総】衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等の開発
- 【経】衛星データ利用システム実装加速化

○ 7月下旬

- 【経】射場における高頻度打上げに資する汎用設備のあり方についてのフィージビリティスタディ
- 【文】月極域における高精度着陸技術
- 【文】軌道上データセンター構築技術

○ 8月上旬

- 【文】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術
- 【文】次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術
- 【経】革新的衛星ミッション技術実証支援
- 【文】空間自在移動の実現に向けた技術
- 【文】宇宙転用・新産業シーズ創出拠点

○ 8月下旬

- 【文】スマート射場の実現に向けた基盤システム技術
- 【総】衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた周波数共用技術等の開発・実証
- 【経】宇宙機の環境試験の課題解決

○ 9月中旬

- 【文】SX中核領域発展研究

それぞれ公募開始の約1ヶ月前を目安に、改めて宇宙戦略基金ウェブサイト公募予告を掲載予定です。



SPACE
STRATEGY
FUND



実施方針に関する補足説明 (分野共通)



宇宙戦略基金 第二期 技術開発テーマ（文部科学省分）一覧

令和6年度補正予算にてJAXAに造成された宇宙戦略基金（文部科学省分：1,550億円）を活用し、宇宙分野への関与・裾野拡大が特に期待できる技術開発の内容を、当面の事業実施に必要な支援規模、期間等とあわせ、第二期の技術開発テーマとして設定（全13テーマ）。

輸送

◆ スマート射場の実現に向けた基盤システム技術

総額：85億円程度，支援期間（最長）：5年程度

◆ 有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術

総額：100億円程度，支援期間（最長）：3年程度

衛星等

衛星

◆ 次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術

総額：100億円程度，支援期間（最長）：6年程度

◆ 地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術

総額：40億円程度，支援期間（最長）：6年程度

軌道上サービス

◆ 空間自在移動の実現に向けた技術

総額：300億円程度，支援期間（最長）：6年程度

◆ 空間自在利用の実現に向けた技術

総額：165億円程度，支援期間（最長）：5年程度

探査等

地球低軌道利用

◆ 軌道上データセンター構築技術

総額：135億円程度，支援期間（最長）：5年程度

◆ 船外利用効率化技術

総額：65億円程度，支援期間（最長）：5年程度

◆ 高頻度物資回収システム技術

総額：25億円程度，支援期間（最長）：3年程度

月面開発

◆ 月面インフラ構築に資する要素技術

総額：80億円程度，支援期間（最長）：5年程度

◆ 月極域における高精度着陸技術

総額：200億円程度，支援期間（最長）：4年程度

分野共通

◆ 宇宙転用・新産業シーズ創出拠点

総額：110億円程度，支援期間（最長）：5年程度

◆ SX中核領域発展研究

総額：100億円程度，支援期間（最長）：3年程度

【補足】 共通分野のテーマについて

SX-CRANE（SX-Center of Research ANd Engineering）：

大学等の研究者を対象に、当該研究者等を中心とした革新的な研究開発を中長期的に支援し、国際競争力のある拠点としての発展を目指す枠組み（シリーズ）。

（技術開発テーマ名）

- ・ SX研究開発拠点（第一期テーマ：5件を採択済）
- ・ **宇宙転用・新産業シーズ創出拠点**（第二期テーマ：本年8月上旬公募開始予定）

SX-ARK（SX-Advanced Research Kick-starter）：

民間・大学等を対象に、宇宙開発利用にまつわる特定の領域設定の下、革新的なアイデアや多様な要素技術に関する初期段階の開発・実証を短期的に支援しつつ、領域内でのネットワーキングを推進することで、事業構想への発展や我が国の技術基盤の底上げを目指す枠組み（シリーズ）。

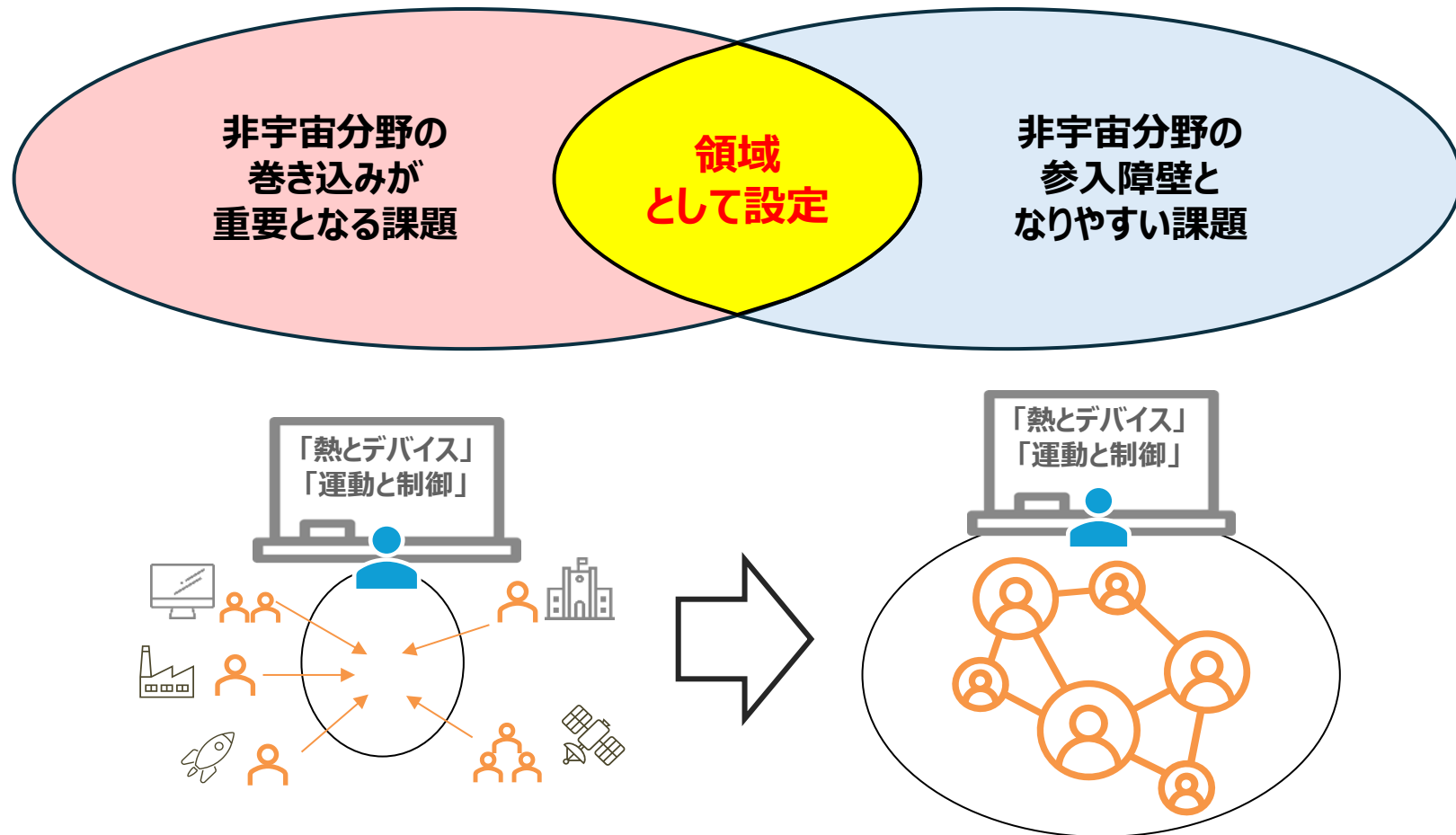
（技術開発テーマ名）

- ・ **SX中核領域発展研究**（第二期テーマ：本年9月中旬公募開始予定）

【補足】SX研究開発拠点と宇宙転用・新産業シーズ創出拠点の主な比較

	(第一期) SX研究開発拠点	(第二期) 宇宙転用・新産業シーズ創出拠点
目的	これまでの我が国の宇宙産業が、JAXA及びJAXAと緊密な協力関係にある幾つかのプライム・コントラクターを中心に発達してきた中、激化する国際競争に伍していくため、 <u>特色ある技術や領域において国際競争力のある（JAXAを超える）水準の宇宙分野のクラスターを形成する。</u>	
募集	卓越した研究者を中核とした <u>牽引型の推進体制</u> 、または高度な研究開発環境を中核とした <u>共用型の推進体制</u> のいずれかの構想を募集する。	卓越した研究者を中核とした牽引型の推進体制、または高度な研究開発環境を中核とした共用型の推進体制のいずれかの構想を募集することとし、 <u>特に、非宇宙分野との連携（非宇宙分野の技術の宇宙分野への適用等）や、従来とは異なる宇宙産業・利用ビジネスの創出に繋がる提案を広く求める。</u>
支援額	上限 <u>22億円</u> 程度（目安として直接経費2.4億円＋間接経費30％／年）	
支援期間	最長 <u>8年</u> 程度	最長 <u>5年＋3年</u> 程度（自走化期間）
採択件数	最大 <u>5件</u> 程度（牽引型3～5件、共用型0～2件程度）	
評価軸の例	（革新性・戦略性の評価より抜粋） 特色ある技術や領域において革新的・独創的な技術や発想等を有し、将来の宇宙開発市場の開拓や宇宙を通じた社会課題解決等、 <u>経済・社会の変革に大きく貢献し得る研究開発成果が期待される構想</u> であるか。等	（革新性・戦略性の評価より抜粋） 特色ある技術や領域において革新的・独創的な技術や発想等を有し、 <u>非宇宙分野からの技術の適用や人材の参入</u> 又は <u>新たな宇宙産業に繋がるシーズ創出</u> 等を通じて、将来の宇宙開発市場の開拓や宇宙を通じた社会課題解決等、 <u>経済・社会の変革に大きく貢献し得る研究開発成果が期待される構想</u> であるか。拠点が位置する <u>地域の特性等とのシナジー</u> が考慮されているか。また、 <u>複数の組織や機関等との連携を行う場合は、明確かつ一体的な目標に向けて真に戦略的・効果的</u> な構想であるか。等

【補足】SX中核領域発展研究



当該領域における宇宙技術開発に詳しいPO補佐  の下、様々なプレイヤーが参入し、相互に触発・ネットワークを形成しつつ早期の技術開発・実証を進めることで、当該分野における層の厚みを確保するとともに、宇宙分野のボトルネックの解消を推進する。
※ 既に宇宙分野での実績を有するプレイヤーも支援対象に含みます。

【補足】 SX中核領域発展研究で対象とする技術開発課題のイメージ

各領域の趣旨に沿った「革新的な基盤技術」や「まだ宇宙で試したことのない技術やアイデア」を想定。
(既に当該事業者により宇宙での商用レベルにある技術の量産化等に向けた提案は対象外。)

熱とデバイス

宇宙空間における熱制御及び電子機器の利用の高度化や革新に繋がりうる要素技術開発等。

(例)

- ・ 低質量排熱システムの要素技術
- ・ 省電力・高速な回路技術
- ・ 放射線耐性の高い半導体技術 等

運動と制御

宇宙機やロケットの推進系技術や飛行・走行技術、制御技術の高度化・革新に繋がりうる要素技術開発等。

(例)

- ・ 長寿命なベアリング技術
- ・ 大推力・低燃費な推進系の要素技術
- ・ 超小型衛星用高精度姿勢制御系 等

詳細はJAXAにて公募要領に記載予定。

【補足】SX中核領域発展研究の推進スキーム（予定）

採択前

説明会・広報活動等

4月～

事前相談会

9月中旬

公募

2領域等に関する宇宙転用等に向けた事前相談会を実施。「これは何かに使えるか？」などの初歩的な質問にも対応予定。

※ 事前相談の有無や内容は実際の審査（評価）とは無関係です。

支援期間（3～4年程度）

初期技術開発

初期技術実証

支援終了後

本格的な開発への移行等

PO補佐との対話や領域内でのネットワーキングを深めつつ、各々の要素技術開発を推進。
技術実証フェーズへの移行に向けたステージゲート（SG）評価を実施。

宇宙実証が必要な場合は、複数課題の相乗りによる打上げを想定。打上げ費用は支援額の外枠からの措置を予定。

※ 採択やSGの通過が宇宙実証を保証するものではありません。

本テーマ全体として、「採択事業者の7割以上がその後の発展的計画・構想を有している」状態を目指す。